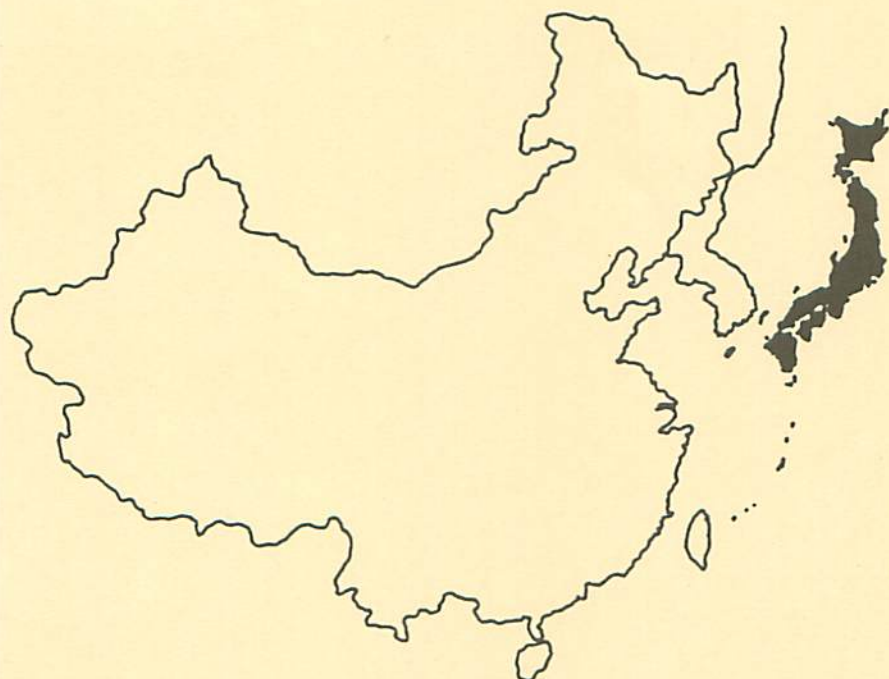


FD# 12

日本ビジネス中国語学会

会 報

第13号



第13回総会開催

公開講演会・会員シンポジウム（第13回）を同時開催

日本ビジネス中国語学会の第13回総会が、6月14日（土）午後2時より、大阪市北区の大阪中国語学院において開催され、熱心に審議を行いました。

総会成立を確認後、藤本恒会長が議長をつとめ、2002年度の活動報告、収支報告と今年度の予算案、活動案などの審議を行いそれぞれ承認されました。

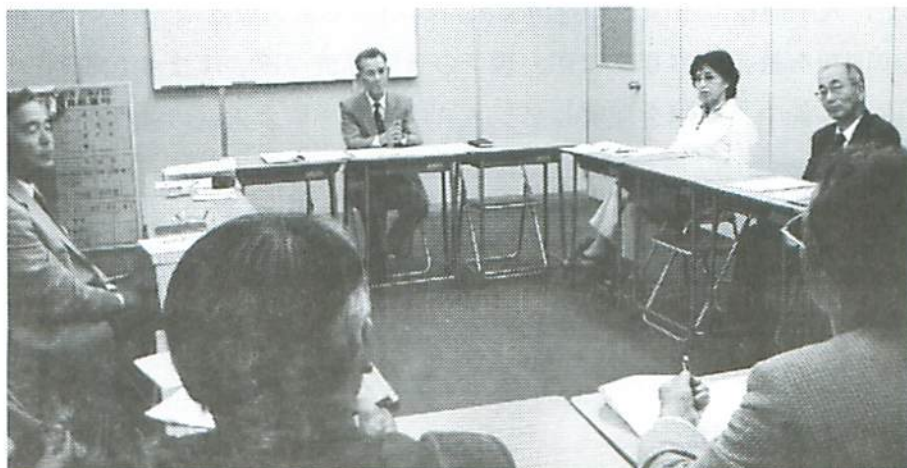
1. 昨年の総会で学会の広報活動としてホームページ増強グループを設けたが、更に内容の充実化、迅速化を図っていく。
2. 居住地が同一の家族会員には、二人目の年会費を1,000円とし、来年から実施する。
3. 関東地区会員の強い要望もあるので、今秋には東京で何らかの会合の場を設ける。
4. 中国語教育の実態を知るためにアンケートを行いたい。

等の意見が出され審議を経て承認されました。

総会の後、公開講演会・シンポジウムが開かれ、待場祐子先生が「中国語ニュースのリスニング……その実際と総合的語学力アップを目指したドリル……」の演題で、授業現場での指導体験を、戸毛敏美先生は「ビジネス中国語初歩教育での教授経験」の演題で、検定の対策と指導方法の教授経験やビジネス中国語学習の初級段階の現状などを話されました。千手友昭先生は「中国（北京・上海）でのエレベータ・エスカレータの事業推進に関わる実践経過について」をテーマに、「エレベータ・エスカレータの受注は経済発展のバロメータみたいなもので、中国では2008年の北京オリンピックまで捌ききれないほどの注文がある」など、第一線で活躍された方ならではの、うらやましい話も披露されました。

（講演要旨は本号に掲載）

終了後、会場を移して懇親会を催し、中国問題など自由に語り合い親睦を深めました。



日本ビジネス中国語学会第13回定期総会議事録（要旨）

2003年6月14日（土）大阪中国語学院

1. 14:00 議長選出 会則にもとづき藤本恒会長が議長をつとめる。
 2. 総会成立 現在有効会員51名の内、出席者10名、委任状25名、合計35名。
過半数で成立を確認
 3. 報告 活動報告（岩下孝彦）：資料にもとづき報告。承認
収支報告（岩下孝彦）：別紙の通り収支状況を報告。承認
監査報告（待場裕子）：正確に記帳されている事を認める。承認
 4. 活動案提出 藤本会長資料にもとづき提案。承認
 5. 予算案提出 藤本会長より資料にもとづき提案。承認
 6. 理事長選出 武吉次朗理事長の退任に伴ない榎原茂樹氏を新理事長に選出。承認
- 14:30 閉会

*総会成立会員数51名は2002年度会費納入者の数で、会員名簿数とは差があります。



理事長就任のご挨拶

榎原 茂樹

武吉次朗先生が平成15年春、摂南大学を定年退職され、東京に戻られることになり、理事長職の遂行が事実上できぬことから、昨年来、私を新理事長にと強く推挙されました。

私は数年前この学会に加入以来、若輩浅学を顧みず、ビジネス中国語検定試験の出題の一部を分担させて頂いたり、シンポジウムでの講演等を仰せつかったりしていましたが、理事長などは到底その器にあらずと固辞し続けてきました。然しながら藤本会長よりも是非にと強く求められ、他理事諸氏の了解も取り付けたとて、お断り出来ぬ環境の下、今回お引き受けすることになった次第です。

私は長年、大手商社で中国との経済交流に携わって来、最近は大阪・神戸両外大で、ビジネス中国語を教えておりますが、現下の日中経済交流の深まりと厚みの中で、求められる人材、就中、中国を理解しビジネス中国語を解す人材の強化が今こそ必要と思っています一人です。

当学会は日本で唯一のビジネス中国語学会であります。ミニ学会ではありますが、その特長を生かした機敏且つニーズに則した活動が魅力でもあります。

今後、藤本会長のご指導を得、また理事、会員各位のご支援ご協力ご鞭撻の下、そして事務局の協力も得つつ、微力ではありますが、お役に立つべく頑張りますので宜しくお願い申し上げます。

第14回 公開講演会・シンポジウム

中国語ニュースのリスニング

——その実際と総合的語学力アップを目指したドリル——

流通科学大学教授

待場 裕子

はじめに

一口にビジネス中国語といってもその関わる領域はきわめて広く、いわゆる貿易取引業務、合資合併、投資プロジェクト、金融、保険、流通など様々な分野で専門の実務用語が使われています。その膨大な用語へのアプローチの一つの切り口として、時事中国語、とりわけ中国語ニュースのリスニングを提案する次第です。その理由は時々刻々提供される新しい中国語ニュースには、中国ビジネスを展開して行くに当たって是非とも必要な新しい知識、社会経済の動きが伝えられているからです

私は昨年3月までの4年間、大阪外国語大学で「中国語通訳演習」の授業を担当しましたが、実は授業の素材に中国語ニュースを採用しました。いま遅ればせながらその経験をまとめ、今後、中国語ニュースのリスニングをベースにした、中級から上級への総合的語学力アップを目指したドリルを提案したいと思います。これはあくまで一つのトレーニングのフレームであって、皆さまの授業または学習のご参考になれば幸いです。



1. 外大での「中国語通訳演習」の授業の実際とその効果

中国語ニュースのリスニングを中心に下記のように行った。とりわけレベルの微妙に異なる全受講者に有効な授業スタイルであることにこだわる。

教材：NHKラジオ第2放送 13：00から13：10 中国語ニュース

毎週最新ニュース約3分程度収録したテープを、LL教室にて全員にダビングする。

翌週ディクテーションを提出させる。(最初は聞き取れないブランクの箇所がかなり目立ち、当然聞き違い、その結果意味の取り違いなど様々な問題が山積していた。)

能力に応じて日訳原稿も提出させる。

授業の内容と進行

(1) 前週のディクテーション原稿と、その正解原稿を全員に配布

リスニング上の問題点の指摘と解説を行う。

例えば「与・于・予」「实验・試験」「组织・阻止・主旨」などよく似た発音の文字の聞き違いがよく見られた。

学生各自がディクテーションの正解原稿と自分の原稿を突きあわせて修正し、不明箇所の書き込みを行うことによって、自分のレベルにおいてそれぞれに習得し、理解し、語彙を増やしていった。

文字原稿と音声の意味の完璧な理解を前提に、下記の各種トレーニングを、学習者のレベルに合わせて、適宜組み合わせて行う。

- ① 中国語原稿を見ながらリスニング
- ② 日本語訳を見ながらリスニング
- ③ 中国語原稿を見ながらシャドウイング (ヘッドフォンがあればより有効に行える。以下同)
- ④ 日本語原稿を見ながらシャドウイング
- ⑤ 原稿無しシャドウイング
- ⑥ 原稿を見ながら 中国語 $\longleftrightarrow$ 日本語の同時通訳練習

(2) この他に学生から2分程度の中国語での話題提供も毎回行わせた。時事問題をはじめ様々な話題が提供され、その中国語訳を全員で確認。

学習者の感想

- ・共通項として毎週のニュース書き取り提出はかなりきつかった。
- ・授業の難易度から言うと、かなり難しかった。
- ・しかし授業開始時と学年終了時を比べると、そのリスニング能力は、自分も驚くほど向上した。聞き取れる単語数が目に見えて増えていった。(実際提出されるディクテーション原稿にも、空欄が徐々に減って行くことが確認された。)
- ・ニュースが課題だったので、その時の日本の新聞に注目するようになり、時事問題に関心を持つようになった。日本語訳に当たっては当日の日本の新聞やニュースに注目し、それを参考にして日本語訳をした。
- ・毎回短時間ではあるが、様々な話題が提供され、内容的に面白かった。
- ・ニュースは出来るだけ新しいものを使って欲しい。あまりニュースに偏らないで欲しいなど。

2. 中国語ニュースソース

① 活用できる中国語ニュースソースの多様化

NHKラジオ第2放送 中国語ニュース

BS1衛星放送 「世界ニュース」「アジアニュース」では中国CCTVや「上海テレビ」のニュースを日本語同時通訳つき(音声多重)で放送
ケーブルテレビなどで受信可能なCCTV大富 香港 台湾などの放送
インターネットを利用したNHKワールドデイリーニュース(下記詳述)

② 中国語学習者が比較的取り組みやすいNHK発の中国語ニュース

☆ニュース取り上げの基準が日本発で、主にNHKの国際向け放送のニュースが基本となっている。(中国発のニュースは当然中国政府見解が中心。)

☆発話速度・発音 中国のニュースよりもややおそいので聞き取りやすい。

☆問題点 時に訳語にこなれていないところがあったり、アナウンサーによって発音に多少の違いがある。

NHKラジオ 第2放送 13:00~13:10(音声のみ)

インターネット NHK WORLD DAILY NEWS

毎日 14:30更新(基本的には、上記ラジオニュースの音声と文字)

22:00更新(NHK海外向け「ラジオジャパン」中国語ニュース

20:30(短波)の音声と文字

③CD付きの月刊・週刊の中国語学習雑誌もおすすめ

月刊「中国語ジャーナル」アルク社出版 音声と原稿付き スピード2段

週刊「中国語世界」(株)日中通信社発行 主なニュースにヒヤリングCD別売

3. 中国語ニュースリスニングのメリット

中級者以上にとって、ニュースリスニングは総合的語学力の向上に最適

- ①内容が常に新鮮であるため、興味が持続する。
- ②同時点の日本語ニュースを聞くことによって、不明箇所の意味を推測できる
- ③多種のメディア活用によって、レベルに応じたトレーニングが可能

4. ニュースリスニングの目標

第1目標：内容理解（5W1H=When Where Who What Why How）

大まかな内容を把握する。

これにはキーワードの知識と背景知識の有無が大きく関わる。従って絶えず関連語句を増やすこと、時事問題、広く社会問題への幅広い知識の蓄積が必要。

第2目標：音声認識 耳に入ってくるすべての発声の意味をとりあえずその時点で全て認識理解できるようにする。（理解と記憶は異なる。）意味不明の発声は直ちに辞書などで確認。

第3目標：より完全な日本語訳が出来るようにする。

第4目標：シャドウイングによって、発話能力を訓練する。

第5目標：日本語訳文を使って同時通訳（中 $\leftrightarrow$ 日）のトレーニングを行う。

5. 中国語ニュースリスニングのドリルの進め方

（実例 A, B 別紙）

- ①リスニングの前に学習者に関連情報（例えばニュースのタイトル、関連語句、キーワード、背景知識など）を提示する。これはあくまで学習者の能力アップを目的としており、テストをするわけではない。如何にしてニュースを聞き取りやすくするかが目的。

- ② リスニングの実施

内容理解の確認（5W1Hなどについて口頭で質問または筆記で解答）

音声理解の確認（空欄のあるスクリプトを配布して穴埋め）

- ③ 中国語スクリプトを配布して、内容理解と音声理解を確認
- ④ 日本語スクリプトを配布して、内容理解の再確認、語句ポイント・翻訳テクニックについて説明

- ⑤ トレーニング実施

シャドウイング（原稿あり、原稿なし）

同時通訳（中→日、日→中）

サイトトランスレーションなど

参考図書

「4週間で必ず聞き取れるVOA英語ニュース リスニング初挑戦」

小樽商科大言語ンセター 小宮敏彦著 株語研 出版

「NHK BS英語ニュースを聞きこなす ニュースアワー リスニング」

関西外大 宮野智靖 CD付き 株語研 出版

リスニングドリルの実際

インターネット NHKワールドデイリーニュース 2003/05/24より。(なおこの音声例A, B(5分程度)を聞いてみたい方、空テープを下記にお送り頂ければダビングして返送します。〒651-0021 神戸市西区学園西町3-1 流通科学大学 待場宛)
(A)

ニュースのタイトル

专家分析指出 SARS 病毒可能源于动物

専門家筋によると新型肺炎のウイルスは動物から感染の可能性

キーワード

世界卫生组织 世界保健機構 WHO

研究小组 研究チーム

果子狸 ハクビシン

貉(hé) 通称貉子(há ozi), 也叫狸 タヌキ

鼠獾(shǔ huān)=狗獾 アナグマ

灵猫科 ジャコウネコ科

病毒 ウイルス

冠状病毒 コロナウイルス

检查出 検出

基因排列 遺伝子配列

疫苗 ワクチン

烹调 調理する

内容理解の確認

上記の語句を理解した上で、誰が? いつ? どこで? 何を?どのようにして? 結論は?などを考えつつ音声を聞き、下記の問題に中国語または日本語で答えなさい。

关于非典的传播媒体,什么机关发表了新的发现?

新发现的病毒是从什么动物体内发现的?

这些动物体内的病毒,在哪些方面与 SARS 病毒相似呢?

这些动物体内发现的病毒,肯定是 SARS 病毒吗?为什么还要警惕?

在中国南方居住的人与这些动物是如何接触的?

音声理解の確認

次の中国語スクリプトの空欄を、音声を聞きながら埋めなさい。

专家分析指出 SARS 病毒可能源于动物

世界卫生组织 23 号公布, (a) 从广东省 (b) 检查出了与 SARS 病毒基本相同的病毒, 从而表明 (c) 。

据公布, 香港大学和中国深圳市医疗机构组成的研究小组共同对深圳市面上销售的 8 种动物的血液等进行了详细化验和分析。结果 (d) 均检查出了 (e) 从一只貉的体内也检查出了同样的病毒, 而 (f) 。

世界卫生组织认为, 由于已经证实这种从动物体内检查出的病毒会在人体内繁殖, 因此 SARS 病毒很可能是从这类动物传到人体内引发非典肺炎的, 今后将进一步深入研究, (g) 。

在中国南方, (h) , 或将这些动物皮毛加工成皮革制品, 经常接触这些动物。世界卫生组织还认为接触这些动物的粪便也很有可能使人感染非典。

(a) _____

(b) _____

(c) _____

(d) _____

(e) _____

(f) _____

(g) _____

(h) _____

原文ニュースクリプト

世界卫生组织 23 号公布,香港大学和中国深圳市医疗机构组成的研究小组从广东省市面上销售的果子狸几貉良种动物体内检查出了与 SARS 病毒基本相同的病毒,从而表明非典很可能是从这类动物开始传播的。

据公布,香港大学和中国深圳市医疗机构组成的研究小组共同对深圳市面上销售的 8 种动物的血液等进行了详细化验和分析。结果从属于灵猫科的 6 只果子狸体内均检查出了遗传基因排列与 SARS 病毒基本相同的冠状病毒,从一只貉的体内也检查出了同样的病毒,而从一只鼠獾的体内则检查出了这种病毒的抗体。

世界卫生组织认为,由于已经证实这种从动物体内检查出的病毒会在人体内繁殖,因此 SARS 病毒很可能是从这类动物传到人体内引发非典肺炎的,今后将进一步深入研究,争取早日开发出非典疫苗等。

在中国南方,人们常常烹调·食用这些动物野味,或将这些动物皮毛加工成皮革制品,经常接触这些动物。世界卫生组织还认为接触这些动物的粪便也很有可能使人感染非典。

日本語訳スクリプト

世界保健機構 (WHO) 23日の発表によると、香港大学と中国梅州市の医療機関からなる研究チームは、広東省の市場で売られているハクビシンとタヌキの2種の動物の体内から、SARSウイルスと基本的に同じウイルスを検出したため、SARSはこの種の動物からの感染の可能性がきわめて高いことを指摘した。

発表によると、同チームは梅州市の市場に出回っている8種類の動物の血液などから詳しい化学分析を行った結果、ジャコウネコ科に属する6匹すべてのハクビシンの体内から、遺伝子配列がSARSのウイルスとほぼ同じコロナウイルスを検出し、別の1匹のタヌキの体内からも同じウイルスを検出した。また1匹のアナグマの体内からこのウイルスの抗体が検出された。

WHOは動物の体内から検出されたこの種のウイルスは、人間の体内で繁殖することが実証されているため、SARSウイルスがこれらの動物から人体に感染してSARSを引き起こした可能性が強いとの見方から、今後いっそう研究を進め、一日も早くSARSワクチンの開発にこぎつけたいとしている。

中国の南方ではよくこれらの野生動物を調理して食用にしたり、皮革製品に加工したりするため、人と接触する機会が多い。WHOは人間がこれら動物の糞便に接してもSARSに感染する可能性は大と見ている。

(B)

ニュースのタイトル

日美首脳表示視北朝鮮行動有可能采取对抗措施

日米首脳は北朝鮮の行動によっては対抗措置をとる可能性を表明

キーワード

得克萨斯州	テキサス州
联合记者招待会	共同記者会見
以可以研证的形式	検証可能な方式で
达成共识	～との認識で一致した
毒品	麻薬・覚醒剤
走私	密輸
汇款	送金
谴责	非難する
绑架事件	拉致問題

内容理解の確認

上記の語句を理解した上で、誰が？ いつ？ どこで？ 何を？ どのように？ 結論は？
などを考えつつ音声を聞き、下記の問に中国語または日本語で答えなさい。

这次日美首脑会谈是在哪里举行的？

会谈结束后两位首脑召开了什么会？

在此招待会上日美双方表明的内容是什么？

两国首脑达成如何共识？

日本首相认为和平解决朝鲜问题需要什么？具体地要怎么做？

日本首相打算如何解决北朝鲜绑架日本人问题？

音声理解の確認

次の中国語スクリプトの空欄を、音声を聞きながら埋めなさい。

日美首脳表示視北朝鮮行動有可能采取对抗措施

日本首相小泉純一郎和美国总统布什日本时间昨晚 (a) _____, 在会谈后的联合记者招待会上,就北朝鲜的核开发问题,双方表明:日美两国不允许北朝鲜拥有核武器, (b) _____; 日美两国将密切合作争取通过对话和平解决问题; 在美国、北朝鲜和中国的协商中加入日本和韩国。在此基础上, (c) _____, 即如果 (d) _____ 的话,有必要 (e) _____。

小泉首相指出“为了和平解决问题, (f) _____ 都是十分必要的”, 表示目前将 (g) _____。

另外, 布什总统还强烈谴责了 (h) _____。对此, 小泉首相也强调了日本打算 (i) _____ 的立场。

(a) _____

(b) _____

(c) _____

(d) _____

(e) _____

(f) _____

(g) _____

(h) _____

(i) _____

原文ニューススクリプト

日本首相小泉純一郎和美国总统布什日本时间昨晚在美国得克萨斯州举行日美首脑会谈,在会谈后的联合记者招待会上,就北朝鲜的核开发问题,双方表明:日美两国不允许北朝鲜拥有核武器,并要求北朝鲜立即以可以验证的形式放弃核开发;日美两国将密切合作争取通过对话和平解决问题;在美国、北朝鲜和中国的协商中加入日本和韩国。在此基础上,两国首脑还达成共识,即如果北朝鲜的行动继续升级的话,有必要采取严厉的对抗措施。

小泉首相指出“为了和平解决问题,进行对话和施加压力都是十分必要的”,表示目前将加强取缔北朝鲜走私毒品和通过地下银行汇款等违法活动。

另外,布什总统还强烈谴责了北朝鲜绑架日本人事件。对此,小泉首相也强调了日本打算把绑架事件与核开发问题、导弹发射问题一同加以全面解决的立场。

日本語訳スクリプト

日本の小泉純一郎首相とアメリカのブッシュ大統領は、日本時間の昨夜アメリカのテキサス州で日米首脳会談を行い、その後の共同記者会見で北朝鮮の核開発について次のように述べた。日米両国は北朝鮮の核保有を許さず、直ちに検証可能な方式で核開発を放棄することを求めると共に、日米両国は密接に協力して対話を通じて平和的解決を図り、アメリカ・北朝鮮・中国の交渉の中に日本と韓国が加入するように努めること。その上に立って、両国の首脳は、もし北朝鮮の行動が引き続きエスカレートするならば断固たる対抗措置をとる必要があるとの認識で一致した。

小泉首相は平和的解決を図るためには、対話と圧力はともに必要であると指摘し、当面北朝鮮の麻薬・覚醒剤の密輸と地下銀行による送金などの不法活動の取り締まりを強化すると述べた。

一方ブッシュ大統領は北朝鮮の日本人拉致事件を強く非難した。これについて小泉首相も日本は拉致事件と核開発問題、ミサイル発射問題は一括して全面解決するとの立場を強調した。

以上

ビジネス中国語授業の経験

関西外国語大学教授 戸毛 敏 美

ビジネス中国語を巡る社会環境：

これまで35年間日中経済貿易交流に従事してきて、外から大学を見てきた。そこで感じた事は、語学とは理屈ではなく、一つの技能であり、交流の極めて重要な手段であるのに、日本では技能としての語学教育・訓練が少ないのではと感じてきた。

一方企業側は従来の「入社してから教育する」から、余裕がなくなり即戦力を要求している。学生側の事情は、4回生になると就職活動で殆ど授業に出られない。つまり集中して勉強できるのは3年間である。しかも就職難の厳しい環境の中でも、語学を生かせる商社で勤務したい学生が増えている。

そこから以下の条件下での効果的な学習方法を進めようと試みて、昨年のビジネス中国語検定試験では、割合よい成績を上げる事ができた。

与えられている条件：

週一回90分授業のゼミクラス（三回生）対象

学則では90分授業に対しては3～4時間の課外学習で4単位を与えると規定。

一クラス35人 中国語レベルにかなり開きがある（三分の一は短大編入生）

女子学生が多く、一般事務職に就職希望

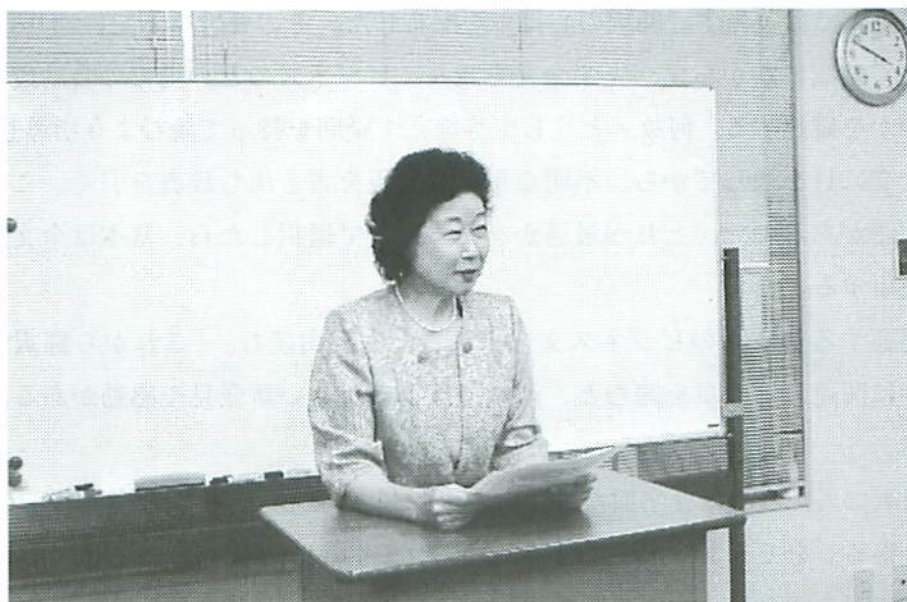
履修者への要求：

- 1) 中国語Ⅰ（週二回）と中国語Ⅱ（週一回）を履修済みの者を対象とする。
- 2) 中国語Ⅲ（週一回）を平行して受講すること。
- 3) 商業英語・商業英語研究等を履修済みまたは履修する事。
- 4) 12月のビジネス中国語検定試験合格を目標にする。

実際授業をして感じた事は、日本語の誤字が多いし、語尾が「です。ます。」調と「ある。ない。」調が混合され、敬語の使い方もアンバランスで、カナ文字が多く漢字の使用頻度が少ない。従って、かなりビジネス日本語文の習得に力点を置いている。

教材の選定：

幸い履修者は殆ど漢字をきれいに書く学生である。つまり漢字に興味のある学生が多い。これは日本人がビジネス中国語を履修する上での有利な点である。この利点を存分に発揮する教授方法を考えた。



教材は「ビジネス中国語マニュアル」を参考に実際使用されているビジネス文や、時事ニュース文を採用。会話だけでなく、ビジネス中国語文を平行して学べるように教材も工夫した。

一昨年は中文日訳と日文中訳を同時にした所、十分ビジネス中国語を習得していないと、目茶苦茶な中国語になった。そこで昨年度は、先ず最初ビジネス中国語の習得に集中し、十分に中国語を習得して、後期の後半になってから、日文からの翻訳をした。その結果ビジネス中国語訳文らしく翻訳できるようになり、効果を挙げる事ができた。

また、テープに吹き込み音声教材として配布し、各人が課外で十分練習した上で授業にできるよう要求している。

教授方法での工夫：

週一回90分しかないので、授業でしか出来ない事にのみ集中し、かなりの部分は課外でさせている。例えば授業時間ではかなりの時間を割いて、中文を朗読（領読・斉読・暗誦）や間違い安い点の説明をする。少走湾路・多走捷路という考えで進める。

先ず、全文簡体字を清書させ、それにピンイン・声調を付け、下に日本語の訳文をつけさせ、提出させている。それを私が点検・添削し、次回の授業で個々人に返却し、共通した問題点を説明したり、長文分析をしたりしてそれぞれ自分の訳文を「点検」させる。

それを毎回「書き取り」「翻訳」をさせて、しっかり正しく覚えているかどうかを点検し、覚えるよう仕向けている。

最初の授業では、先ず「翻訳の心得」を配布した。その要旨は下記の通り。

- 1) すぐ翻訳にかからず、先ず全文を読み、ビジネスのどの場での会話或は往来文なのかを確認する。何故・どうして等絶えず疑問を持って読むよう指導している。
- 2) 全文に目を通してから、不明な単語・表現を書き出し辞書を引く。この時複数の訳語があるので、どれが最適かをよく考えて選択したら、基本は全文通して統一使用する。
- 3) 関連する日本語のビジネス文を出来るだけ沢山読む。「これから翻訳するという時に関連した文章を読むと、通常では得られない新発見や感動があるから」と強調。
- 4) 翻訳に当たっては「字面だけで訳すな！」と強調。「得其意・忘其形」「簡潔して要を得る」をモットーにするよう要求。つまり特に同じ漢字を使用しているので、原文に引きずられやすいのを防止し、日本語らしく訳するよう奨励。
- 5) 不明な点は研究室へ質問に来るよう奨励。それは短い文でも一つ翻訳する事によって多くの情報を収集するよう指導している。
- 6) 翻訳後は必ず声を出して訳文を朗読するよう指導。声を出す事により、特に日本文の不具合は発見しやすいので、これを奨励している。

例えば「好久没见,甚念」も字面だけですと「お久し振り」と訳しやすいが、後ろの「甚念」を見落とさず、この文はまだ会っていない、懐かしく思っている場合だから「久しくお目に掛かっておりませんが」と訳するとか。「补偿贸易」「延期付款」も質問に来ず、字面だけで「補償貿易」「延べ払い」と訳した人は、授業で何故こんな方式が必要なのかを質問し、答えられないと叱られる。「发票总金额的 110%投保」も「卖方一定要通过卖方同意的银行开立信用证」も何故110%なのか？何故売手の同意した銀行と要求する必要があるのか？など質問する。「不客气」も通常は相手の謝礼言葉に使う場合は「どう致しまして」と訳するが、だが相手がどうぞ宜しくに対して使用される場合は「こちらこそ」の訳になるので注意を促す等、考え、疑問をもつよう仕向けている。

二三ヶ月もすると、レベルも揃ってくるので更に厳しく要求している。

問題は前期一所懸命努力した学生が夏休みにがっつと学力が落ちる事である。そこで全員に中国語から学んだ中国語を全部五十音順に整理して自分の辞書を作成させ、提出する事を要求している。全員の辞書を点検するのは大変であるが効果は良い。前期学んだ物も、中国語からは出てこないが、日本語で何を学んだかは思い出せるので、日本語からすぐ引ける自分の辞書作りは、後期の授業を進める上で有効である。

また自分の学習成果が目で確認でき、喜びを感じられるし、また辞書作成の過程で毎日繰り返し単語を見るので、一層強く記憶にも残るようである。私は中国語。の学生から自分の辞書作りを要求しているが、これをすることによって、夏休み・冬休みの落ち込み防止効果が上がっているし、学生にも好評である。

まだビジネス中国語の授業を開始してから経験も浅く、まだまだ改善する必要があると感じている。ビジネス中国語検定試験合格で就職できた学生が大勢いるので、今後でもできるだけ努力したいと思っている。

また、今年は主に4回生を対象とした二級合格目標の学習を強化した。毎週一回図書館のグループ学習室を利用して、中国の政治・経済・貿易分野の文章を学習するため、午後1：00から2－3時間の特別訓練をして、一人でも多くの二級合格者を増やそうと考えて授業を進めている。

中国（北京・上海）でのエレベータ・エスカレータ事業 推進に関わる実践経験について

千手 友昭

一、報告者のプロフィール

氏 名：千手 友昭（センジュ トモアキ）

所 属：日本ピラー工業株式会社 中国室 専任部長

専門分野：中国ビジネス（中国貿易全般、中国事業推進）

経 歴：1966年 大阪外国語大学中国語学科 卒業

1966年～1985年 貿易商社（蝶理株式会社）勤務

1985年～2002年 エレベータメーカー（フジテック株式会社）勤務

2003年1月～現在 精密機械メーカー（日本ピラー工業株式会社）勤務

業務経験：1. 中国貿易営業（繊維、機械、プラント、化学品、食品、物資等の輸出入）

2. 中国事業推進（エレベータ・エスカレータ事業推進に関わる北京・上海での駐在員事務所と合弁会社の設立、運営、管理等）

3. 中国駐在経験（累計）約20年（北京14年、上海4年、台北2年）

二、報告内容

1. 報告者の中国貿易及び中国エレベータ・エスカレータ事業との関わり：

中国貿易と中国事業推進を通じての駐在員事務所（北京・上海）とエレベータ（河北省）・エスカレータ（上海）合弁会社の設立・運営・管理等

2. 中国エレベータ業界の歴史と現状：

主管官庁、関係団体、製造業、販売業、据付業、メンテナンス業等

3. 中国のエレベータ・エスカレータの市場動向：

需給状況、主要ユーザー、主要メーカー（世界の工場）、販売競争（世界の市場）等

4. 中国でのエレベータ・エスカレータの取引実務：

プレゼンテーション、引合、見積、入札、受注、契約（機器契約、据付契約）

設計・図面確認、機器生産、機器の出荷・輸送・現場搬入・商品検査

据付工事（機器の組立・据付・調整）、検収、引渡し、メンテナンス（無償・有償）

5. 中国のエレベータ業界及び其の取引実務で普遍的に使用されている主な専門用語

（中国語）の紹介：（添付別紙の主要専門用語〈日中対訳〉一覧表をご参照願下さい。）

以上

「中国（北京・上海）でのエレベータ・エスカレータ事業 推進に関わる実践経験について」の報告



前置き：

私は長年来勤務したエレベータメーカーのフジテック株式会社を昨年末に定年で退職し、今年1月から再就職先である精密機械メーカーの日本ピラー工業株式会社に勤務しております。私の自宅が千葉にある関係で、今年1月から現職の大阪本社勤務の為、現在大阪に単身赴任中です。そして今、同社の中国事業推進の業務に従事しています。

日本ビジネス中国語学会の存在は前職の東京支社勤務中に知っていましたが、最近大阪での私の母校である大阪外国語大学新学長（新学長の是永先生は私の本学同期生）就任祝賀会に出席する機会がありまして、その時に出席されていた本学先輩の待場先生から本学会への参加をお勧め頂き、本学会会長の藤本先生が私の貿易商社（蝶理株式会社）勤務時の上司であった縁もありまして、此の程本学会に入会させて頂きました。そして又同時に、藤本先生から本学会総会の公開講演会・シンポジウムで私の中国ビジネス体験を何か話するようにご要請がありまして、最近の私の中国ビジネス体験の実践論として、中国の北京・上海駐在時のエレベータ・エスカレータ事業推進に関わる実践経験について、本日ここで話しさせて頂くことになった次第です。

それでは、これから皆様のお手元に配布されているレジュメに基づき順次お話しさせて頂きます。

1. 報告者の中国貿易及び中国でのエレベータ・エスカレータ事業との関わり：

私の経歴と業務経験は皆様のお手元に配布されているレジュメ通りでして、これまで約37年間、一貫して中国ビジネスと関わりまして、貿易と事業推進を通じて、ビジネス中国語にも常時接してきました。

私の中国語と中国研究との関わりは、1962年大阪外国語大学中国語学科に入学し、元学長の金子先生と元学長で本学会初代会長の伊地智先生他諸先生のご指導を受けながら、中国語と中国の政治・経済・歴史・文化等を学んだのが始まりです。

1966年大学卒業後は、貿易商社の蝶理株式会社に就職し、当時会社の中国貿易

の責任者であった本学会会長の藤本先生から中国貿易と中国語のご指導を頂きながら、日中友好商社の一員として日中友好貿易に従事することになりました。当時は未だ日中間の国交がなくて、中国の文化大革命の最中での貿易が10数年間細々と続きました。

その後、1980年代半ば、中国が改革開放政策による市場経済の発展途上時に、エレベータ専門メーカーのフジテック株式会社に転職し、中国向けエレベータ・エスカレータの中国向け輸出営業と中国事業推進に従事することになりました。そして昨年までの約18年間の大半を、中国の北京と上海に駐在して、エレベータ・エスカレータの輸出促進と契約履行並びに合弁事業の推進に従事しました。

中国は1990年代以降に経済全体が急速に発展してきましたが、エレベータ・エスカレータ業界も同様に発展し、今まさに「世界の工場」であり、同時に「世界の市場」になりつつあります。この時期に、私自身はエレベータメーカーの中国駐在代表として、北京と上海で駐在員事務所を運営しながら、北京でエレベータ製造・販売の合弁会社の設立・運営に関わり、又次に上海でエスカレータ製造・販売の合弁会社の設立にも関わりました。この間、北京で当時中国最大のプロジェクトであった中国国際貿易センターのエレベータ・エスカレータの商談、契約及び契約履行に一貫して加わり、建設工事現場のプロジェクトマネージャーも兼務して、現場での多数のエレベータ・エスカレータ据付工事の施工管理業務にも加わりました。

では次に、エレベータ業界の実情、市場動向、取引実務及び業界用語（中国語）の紹介を中国ビジネスの第一線で体験した実践論として披露させていただきます。

2. 中国エレベータ業界の歴史と現状：

中国におけるエレベータの歴史は、第二次大戦前の上海で、米国オーチス社とスイスのシンドラ社のエレベータがキャセイホテル（現在の和平飯店）等のホテル、オフィス等に設置されたのが始まりであり、戦後の新中国でもこの2社の技術を受け継いだ国営のエレベータ工場が上海、北京、天津等の大都市で発足して、国産製品の生産がスタートしました。そしてその後、1980年代の改革開放政策による外資導入で、世界の先進二大エレベータメーカーである米国オーチス社とスイスのシンドラ社が上海、北京、天津でそれぞれの地場の国営エレベータ工場と合弁会社を設立して、本格的生産に入りました。

1990年代に入って、日本の三菱電機、日立製作所、東芝、フジテックの大手エレベータメーカー4社が上海、広州、沈陽、河北省で相次いで合弁会社を設立し、生産量が大きく増えました。同時に欧州、韓国、台湾、マレーシアのその他多くの中堅エレベータメーカーの参入もあって、世界最大の生産国となりました。

中国のエレベータ・エスカレータ業の主管官庁は、中央では建設部と労働保障部（元の労働部）であり、地方の省・市では建設委員会と労働保障局（或は労働保障庁）

がエレベータ業の生産認可（生産許可証の発行）や据付工事、メンテナンス業務の認可、検査等を行っています。関係団体としては、中央に中国建設機械総公司と中国エレベータ協会があり、地方の省・市にもその分公司と地方のエレベータ協会があり、それぞれのレベルで業界のとりまとめをしています。

中国のエレベータ・エスカレータメーカーは、元々大型・中小型の国営工場が全国各地に大中小合わせて約200社位ありましたが、1980年代以降、外資導入による外国メーカーの進出で、外国企業との合併や提携での再編成や整理・淘汰等があり、約100社位に減りまして、現在は上海、北京、天津、広州、河北省等にある欧米系と日系の前述6社に次いで中国に進出してきたフィンランドのコネー社（江蘇省）とドイツのテイツセン社（広東省と山東省）の2社を加えた世界のエレベータ大手8社が中国でもエレベータ大手8社となっています。

このエレベータ業の大手8社は全国の主要大都市に支店（分公司）や営業所（弁事処）を数多く設置して、販売や据付工事、アフターサービス（メンテナンス）を直接行うと共に、全国各地の販売代理店、協力業者（据付業者、メンテナンス業者及び原材料・部品の外注業者）と提携して全国展開を図っています。

3. 中国のエレベータ・エスカレータの市場動向：

エレベータの需要については、1950年代から1970年代はオフィス、ホテル、住宅等いずれもエレベータを必要とする高層ビルが少なく、当時比較的多かった政府機関や国営企業のオフィスビルや職員用住宅等も多くがエレベータを設置しない5階から6階・7階建てであり、計画経済下での国営エレベータ工場が製造する国産エレベータの供給があるだけでした。その後、1980年代から1990年代にかけての改革開放政策による市場経済下での外資導入に伴う経済発展で、大都市でのオフィス、ホテル、住宅等の高層ビルが急速に増えまして、エレベータの需要が急増してきました。

エスカレータの需要も、同時期に大都市の百貨店やショッピングセンター・スーパーマーケット及び空港・汽車の駅・地下鉄の駅等が競ってエスカレータを設置するようになり、エレベータの需要増と同様に急増しました。

この為、同時期に中国へ進出してきた前述の外資系エレベータメーカー各社とも増産体制で需要増に対応し、需要・供給共に大幅に増えました。

2000年代に入ってのエレベータ需要も高層住宅向けが引続き旺盛であり、エレベータ・エスカレータ全体の生産量・販売量ともにすでに日本を抜いて、エレベータ先進国の米国に迫るエレベータ大国になっておりまして、あと一・二年で米国を抜いて、世界のトップになると見られています。更に又、来る2008年の北京オリンピックと2010年の上海万国博覧会に向けての北京、上海等の大都市での高層ビル建設の需要は更に増えつづけると思われます。そして又、中国ではビルの高層化が益々

進んでいます。通常、オフィスや住宅等の高層ビルでは、20階建て以上のビルを高層ビルと称し、40階建て以上のビルを超高層ビルと称しますが、中国の大都市では30階建て以上の住宅ビルや40階建て以上のオフィスビルが増えつつあります。特に上海の市街地では、30階建て以上の高層ビルが多数林立しており、中には40階建て以上の超高層ビルや88階建ての超超高層ビルもあり、更には数年後に100階建ての世界一高い超超高層ビルの登場も計画されており、世界で高層ビルや超高層ビルが最も集中して林立しているニューヨークや香港に迫っています。これは中国経済全体の勢いを示すシンボルとも言えます。上海を中心とする華東地区には、エレベータ・エスカレータのメーカーとその部品メーカーが数多くありまして、この中国最大のマーケットで激しい競争を展開しています。まさに「上海を制する者は世界を制する」といった感があります。

エレベータの主要ユーザーとしては、政府機関のオフィスビル、民間のオフィスビル、政府機関の住宅、民間の住宅、ホテル、百貨店、工場、病院等があります。又、エスカレータの主要ユーザーとしては、百貨店、ショッピングセンター、スーパーマーケット、国際会議・展示センター、空港、汽車の駅、地下鉄の駅、レストラン等があります。これらのオーナーとしては、政府機関、外資系企業を含む民間会社及び住宅開発を主とするデベロッパー等があります。

中国全国でのエレベータ・エスカレータの生産・販売シェアは、前述の外資系大手8社の寡占状態になっておりますが、この外資系大手8社はいずれも中国企業との合弁会社であり、各社とも外国からの技術移転を進めることで、製品の品質・性能共に先進国レベルにかなり近づいてきています。しかし、超高速エレベータや展望用エレベータ及びダブルデッキエレベータ等の高級且つ特殊なエレベータは未だ外国からの輸入品が使われておりまして、今後の更なる技術力向上が望まれています。

中国国内のエレベータ・エスカレータ市場の拡大と需要増に伴い、メーカー間の販売競争も激しくなっており、前述の外資系大手8社の寡占状態が更に強化されると共に、その他中堅・中小メーカーの整理・淘汰を伴う業界の再編成が進んでいくと思われます。

4. 中国でのエレベータ・エスカレータの取引実務：

中国でのエレベータ・エスカレータ業の取引実務は、中国の輸入販売、国内販売ともにプラント業と建設業の取引実務に類似しており、一般の機械・電気メーカーの取引実務とはかなり異なります。エレベータ・エスカレータともに数多くの電子・電気・機械の部品及び資材の集合体であり、これらの主要部品を自社の工場で製造すると共に、その他部品と資材類を外注で調達し、取りまとめて一括で出荷して、納入先の建設現場に搬入します。建設現場に搬入された部品・資材類をエレベータ・エスカレータの設置場所で組立ながら据付けます。据付工事は建築工事との取りあいがあり、

建築工事の進捗に合わせて進められ、エレベータは設置箇所（昇降路と機械室）完成後の据付となります。エスカレータの据付工事は比較的簡単ですが、エレベータの据付工事は複雑で多岐に亘っており、多くの労力と時間及び技術力を要します。据付工事完成後、監督官庁の検査を受けて合格後に施主（オーナー）への引渡しができます。引渡し後は、契約に基づく1年間の機器の品質保証とフリーメンテナンス（無償のメンテナンス実施）を経て、施主と有償のメンテナンス契約を結んで、定期的且つ継続的なメンテナンスと必要な部品取替えを有償で行います。

中国の施主は、元々このメンテナンス業務に対する認識と評価が十分ではなく、エレベータ・エスカレータを長期間スムーズに使う為の予防的な定期点検や必要な部品交換に金を出すのを渋る傾向があり、トラブルや部品の損傷等が続出して初めてその必要性を認識することになります。このメンテナンス契約を軽視して、必要な部品の交換にも応じないことが、運行上のトラブル発生や部品の損傷等の原因ともなり、機器の寿命にも影響を及ぼすことになります。従い、エレベータメーカーは、施主側にこのメンテナンス契約の重要性をアピールしながら、合理的で適格な費用の負担を求めると共に、必要な部品の交換を継続的に行うことで、長期間の安全で且つスムーズな使用を保証しています。

取引実務の大きな流れは、お手元のレジュメに記載している通りですが、以下簡単にご説明します。まずはユーザー筋へ広範に宣伝すると共に、個別の客先に詳しい紹介を行い（中国語では“簡介”〈簡単な紹介〉と言いますが・・・）、客先からの個別の引合を待っての商談となるか、或は公開の入札案内に応じての商談となるか、いずれの場合も少なくとも3社以上の競争（“貨比三家”）になります。公開入札の場合は、少なくとも7～8社、多ければ10数社にもなり、価格、品質、性能、技術力、アフターサービス（メンテナンス）、知名度（“品牌”）等の各方面から比較検討（審査）されて、最終的に2～3社に絞りこまれます。そして、受注（落札）できれば、契約調印となります。

契約の履行段階では、まずエレベータメーカーの設計部門で契約に基づく詳細な図面を作成し、客先の審査・確認後、次に生産部門で主要部品の製造を行うと共に、調達部門で外注の部品や資材類を調達します。主要部品の自社生産完成と外注品の調達完了後に一括で出荷し、客先の建設現場（エレベータ・エスカレータの設置場所）に搬入します。そして、前述の据付工事の施工と引渡し後のメンテナンス実施となります。

5. 中国のエレベータ業界及び其の取引実務で普遍的に使用されている主な専門用語：

お手元の専門用語一覧表は、本日の報告内容に基づいて、普遍的且つ代表的な業界用語を含む専門用語を日中対訳で分野毎にまとめてみました。日中対訳を比較してご覧頂ければおわかりになると思いますが、日本の業界用語は英語を主とする外来語の

発音をそのままカタカナで表示している（例えば“コンピュータ”）のに対し、中国の業界用語は外来語の意味を表示する中国語になっている（例えば“電腦”）のが大きな違いです。

そしてもう一つの特徴は、四字の成句を二字に短縮して使われることが少なからずあることです。（例えばメンテナンスの“維修保養”を“維保”と短縮したり、商品検査の“商品檢驗”を“商檢”と短縮しています。）

中国のエレベータ業界用語の統一を図る為の一貫として、中国エレベータ協会の編纂による「日中エレベータ用語辞典」も発行されていて、日中両国関係者の間で広く使用されています。

それでは最後に、以下お手元のレジュメに添付の業界専門用語一覧表に記載の日中対訳を簡単に解説させていただきます。

以上

中国电梯行业及其交易业务中普遍使用的主要专业词汇

中国のエレベータ業界及び其の取引実務で普遍的に使われている主な専門用語

エレベータ業界の関係機関

1. 电梯行业(业界)的有关单位	エレベータ業界の関係機関：
建设部 建设委员会、电梯运行监督管理中心	建設部、建設委員会、エレベータ運行監督管理センター
劳动保障部、劳动保障局(厅)、劳动保护检测站	労働保障部（元労働部）、労働保障局（元労働局）、労働保護検査測定センター
质量技术监督(总)局、中国建设机械(总公司)、电梯协会	品質技術監督（総）局、中国建設機械（総）公司、エレベータ協会（エレ協）
机电设备招标中心、电梯制造厂商、销售(营销)代理	機械電機設備入札センター、エレベータメーカー、販売代理店
安装工程公司、物业管理公司、维保(维修保养)中心	据付工事会社、ビル管理会社、メンテナンスセンター

エレベータ市場

2. 电梯市场(主要用户)：	エレベータ市場（主なユーザー）：
用户单位、业主、投资开发公司、房地产开发(发展)公司	ユーザー機関、施主（オーナー）、投資開発会社、不動産開発会社（デベロッパー）
办公大楼(写字楼)、智能大厦、商业大厦、宾馆、(大)饭店、(大)酒店、招待所	オフィスビル、インテリジェントビル、商業ビル、ホテル、ゲストハウス
住宅区、公寓(商品房、租赁房)、会展中心(会议厅、展览厅)	住宅団地、アパート（分譲、賃貸）、会議・展示センター（会議ホール、展示ホール）
百货大楼(大厦)、购物中心、超级市场(商场)、餐馆(厅)、酒家	百貨店ビル、ショッピングセンター、スーパーマーケット、レストラン
机场候机楼、火车站、地铁站、厂房、医院	空港ターミナルビル、汽車駅、地下鉄駅、工場建物、病院

3. 电梯·自动扶梯交易的实际业务：	エレベータ・エスカレータの取引実務：
简介、询价、报价、招标·投标、谈判、订(签)合同	プレゼンテーション (プレゼン)、引合、オファー、入札募集・応札、商談、契約調印
图纸审核、出厂·交货、商检(商品检验)	図面審査、出荷・納品、商品検査
组装、安装、调试、验收、交接、维修保养(免费·收费)	組立、据付・調整、検収、引渡し、メンテナンス (無償・有償)
安装工程：工地筹建处、工程监督·技术指导、安装手册·调试手册·进度·配合	据付工事：現場建設準備事務所、工事監督・技術指導、据付マニュアル・調整マニュアル、進捗、取りあい
维修保养：检修、大修、操作手册·维修手册、零部件、备品·备件、远程监视系统	メンテナンス (メンテ)：検査修理、オーバーホール、オペレーションマニュアル・メンテマニュアル、部品、備品・スペアパーツ、遠隔監視システム
由电梯厂商实行的“一条龙服务”体制(生产-销售-安装-维保)	エレベータメーカーが実行する“一貫サービス”体制 (生産-販売-据付-メンテ)

4. 电梯(升降机)的结构：	エレベータ (エレ) (昇降機) の構造：
客梯、货梯、客货梯(服务梯)、住宅梯、医用梯、杂货梯、特种梯(防暴梯、船用梯)	乗用エレ、貨物用 (荷物用) エレ、サービス用エレ、住宅用エレ、病院用エレ、雑貨用エレ (ダムウエイター)、特殊エレ (防爆エレ、船舶用エレ)
(超)高速梯、观光梯、双层梯	(超) 高速エレ、展望用エレ、ダブルデッキエレ
微电脑控制 (交流反馈控制、人工智能控制、神经元电脑控制)、群控管理系统	マイコン制御 (交流フィードバック制御、人工知能制御、ニューロコンピュータ制御)、群管理制御システム

门框、门楣、按钮、显示器、指示灯、开门机、轿箱	三方枰、幕板、押しボタン、インジケーター、ランタン、ドア開閉器、カゴ
装修(装潢)、改装修、喷漆钢板、烤漆钢板、不锈钢	意匠、改装、噴き付け塗装鋼板、焼き付け塗装鋼板、ステンレス
升降路(井道)、门坎(地坎)、导轨、导轨支架、钢丝绳、对重铁、缓冲器	昇降路(シャフト)、敷居(シル)、レール、レールブラケット、ワイヤロープ、カウンターウェイト、バッファー
机房、曳引机、控制柜、电脑板、调速器	マシンルーム、巻上げ機、制御盤(コントローラー)、コンピュータ基板、調速機

エスカレータ

5. 自动扶梯(升降机)的结构：	エスカレータ(エス)(昇降機)の構造：
自动扶梯、自动人行道、梯级、扶手带、钢化玻璃板	エスカレータ、オートウオーク、ステップ、ハンドレール、強化ガラスパネル

以上

日本ビジネス中国語学会 日本商务汉语学会

学会ホームページ閲覧のお薦め

昨年の会報第12号にてご案内済みですが、当学会のホームページはその歩みこそ遅々たるものではありませんが、ここ一年間で着実にその掲載内容も整備充実されてきています。皆さんには是非時間を見つけて、閲覧していただくようお薦めします。「ビジネス中国語学習」・「中国ビジネスの推進」に役立つ内容がきっと見出せると信じています。

『ヤフー』などの検索エンジンで『日本ビジネス中国語学会』を検索してホームページにアクセスしていただけます。また、下記ホームページのアドレス（URL）を入力すれば直接アクセスが可能です。

①<http://www.toho-shoten.co.jp/business/index.html>

或いは、中国語書籍専門書店である（株）東方書店の下記URLのトップページからリンクするアクセスも可能です。

②<http://www.toho-shoten.co.jp/>

現在ホームページに掲載されている内容中、皆さんにお薦めするページの内容二種類を下記に要約しました。

ビジネス中国語単語帳

ビジネスで頻繁に出くわす貿易関連用語と若干の時事用語を索引に便利のようにアルファベット順に並べ、発音及び簡単な訳または解説をつけたものです。

中国の社会主義市場経済改革の深化とともに、毎日のように新語が誕生しています。ビジネスの場で用語が理解できない事は、致命的な問題です。最近「新型肺炎」の蔓延に伴ない“**非典**”なる言葉が全国に行き渡っています。中国のWTO加盟から二年経ち、当初新鮮だった“**世貿**”も今は**初歩のビジネス用語**になり、GATTを指す“**关贸总协定**”は過去の言葉と認識されています。

昨年年末中国の商務印書館から“**新华新词语词典**”が出版されています。色々な新語が収録され、解説が中国語でされています。しかし、ビジネスに特化した当ホームページの単語集ほど便利ではないように思います。しかも語彙数は初歩の厳選された300語ほどだけです。努力すれば一週間で全部覚えられますでしょう。これで、貴方の

ビジネス文書の読解に力が発揮できればしめたものです。さらなる専門分野への挑戦に弾みがつくに違いありません。

ビジネス中国語：達人への道案内

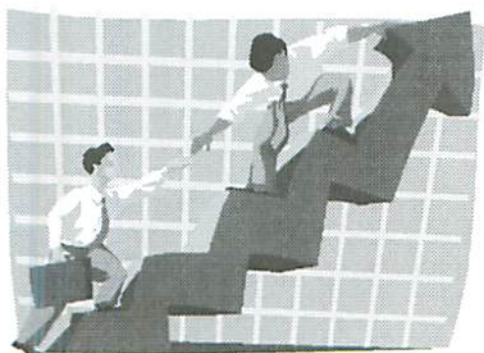
長年、日中間のビジネス現場で活躍された諸先輩、諸先生方が学会のシンポジウムで講演されたお話を文章にして紹介しています。

豊富な経験をもとにした楽しくて含蓄のあるお話や、中国ビジネスに携わる人間が常に考えるべき問題など誠に興味深い話ばかりです。

ビジネス中国語の上達を目指す方々は、是非、ご一読をお勧めします。

過去二回分に加えて、第三弾として、本会報13号掲載の三人の報告を新たに追加しています。

第1回 (会報第12号掲載)	<u>私の日<=>中翻訳論</u> 武吉 次朗 (摂南大学) 対中取引、忘れ得ぬ一コマ 榎原 茂樹 (大阪外国語大学)
第2回 (2003年2月)	<u>ビジネス中国語(商務漢語)雑話 学校用語</u> 藤本 恒 (京都文教大学) <u>てんで話にならない。まるで判らない</u> 戸毛 敏美 (関西外国語大学)
第3回 (詳細は今回の会報に掲載)	<u>中国語ニュースのリスニング——その実際と総合的語学力アップを目指したドリル——</u> 待場 裕子 (流通科学大学) ビジネス中国語授業の経験：戸毛敏美 (関西外国語大学) 「中国(北京・上海)でのエレベータ・エスカレータ事業推進に関わる実践経験について」 千手 友昭 (日本ビラー工業株式会社) 附：中日対照エレベータ業界及び其の取引実務で使われている主な専門用語一覧表



日本ビジネス中国語学会

設立趣意書

明治以来終戦時に至るまでの間、わが国の外国語教育は、先進文化を吸収するための文化語学と、近隣諸国との軍事・通商に備えるための実用語学にはっきりと分かれていました。従って文化語学はアカデミックな研究であり、実用語学は技術的訓練にしかすぎないと見られてきました。そういう潮流の中で、中国語学界のエリートたちは、中国語学を文化語学としてアカデミックな研究の対象にしようと、第2次大戦末期に力説されるようになりました。

第2次大戦後は、曲がりなりにも中国語学はアカデミズムの片隅にその位置を見つけ、大学の教員もアカデミックな研究によって自分の業績を作るようになりました。しかし、一方で実用語学としての中国語学は軽視されるに到りました。外国語大学や社会科学系学部でも、商業経済や新聞雑誌に関する中国語研究は次第におろそかになり、そのため、この方面の研究に従事する人々は、共同に研究する基盤もなく業績を発表する媒体もないという有様であります。

言うまでもなく、日本のおかれている国際的地位は明治・大正と大いに異り、外国文化に関する見方も先進・落後という単純な区別はなくなり、わが国と中国との関係もまた文化から経済まで広くかつ深いものになっています。中国語の言語理論的研究はもちろんより一層発展させる必要があります。同時に中国語の実用的研究はそれ以上必要であると思われます。

近畿在住の数人の研究者が時折顔を会わせて論議しているうちに、全国各地に散在しているそしてまた学界のみならず経済界で活躍しているこの方面の研究者を結集して、中国語の実用的研究——例えばビジネス中国語・通訳翻訳の研究等々を組織的、体系的に推進するために、ここに「日本ビジネス中国語学会」をつくろう、という議が持ちあがりました。

趣旨に賛同下さる方々のご参加を心から期待しています。

日本ビジネス中国語学会会則

第1条 (名 称)

本会は日本ビジネス中国語学会と称する。

第2条 (事務所)

本会は事務所を大阪市内に置く。

第3条 (目 的)

本会はビジネス中国語に関する研究及び関係諸団体との交流を通じて、我が国における中国語学習者の語学能力の向上を図り、もって日本と中国の友好交流の発展に寄与することを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

会長は必要に応じて事業推進グループを設置することができる。

1. ビジネス中国語、翻訳・通訳に関する研究。
2. 日中間の相互理解を深める為の教育・研修事業。
3. セミナー、講演会の開催。
4. 機関紙の発行。
5. ビジネス中国語検定。
6. その他前各号に関連する事業。

第5条 (会 員)

本会の会員は次の通りとする。

個人会員 本会の目的に賛同して入会した個人。

法人会員 本会の目的に賛同して入会した法人。

第6条 (入 会)

本会の会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を提出し、承認を得なければならない。

第7条 (退 会)

①本会を退会しようとする時は、理由を付した退会届けを提出しなければならない。

②会員は次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。

1. 会費を2年以上滞納したとき。
2. 死亡したとき。
3. 会員たる法人が解散したとき。

第8条 (除 名)

会員が本会の名誉を傷つけ、又はこの会則に違反したときは、総会の決議により、除名することができる。

第9条 (役 員)

①本会に次の役員を置く。

会長 1名 理事長 1名 理事 10名以上15名以内 会計監事 2名

②理事及び会計監事は、会員の中から総会において選任する。

③会長及び理事長は、理事の互選とする。

④法人会員の代表は役員の被選任資格を有する。

第10条 (役員の職務)

①会長は、本会を代表し、会務を統括する。

②理事長は、会長を補佐し、会務を処理する。会長に事故あるときは、その職務を代行する。

③理事は、理事会を組織し、会務を執行する。

④会計監事は、経理を監査する。

第11条 (役員の任期)

①役員の任期は、2年とする。但し再任を妨げない。

②補欠により就任した役員の任期は、前任者の残存期間とする。

第12条 (役員の報酬)

①役員は、原則として、無給とする。但し、常任の役員は、有給とすることができる。

②常勤の役員の報酬は、理事会の決議により定める。

第13条 (顧 問)

①本会に顧問、相談役若干名を置くことができる。

②顧問、相談役等は理事会の議決を得てこれを委嘱する。

第14条 (総 会)

①総会は、定時総会及び臨時総会とする。

②総会は会員をもって構成し、この会則に規定するもののほか、次の事項を決議する。

1. 事業計画及び収支予算。
2. 事業報告及び収支決算。
3. その他本会の運営に関する重要事項。

第15条 (総会の召集)

①総会は会長が召集する。

②総会を召集するには、会議の議題並びに日時・場所を開催日の10日以前に通知しなければならない。

第16条（総会の開催）

- ①定時総会は、毎年1回会計年度終了後3ヶ月以内に開催する。
- ②臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、又は会員の5分の1以上の請求があったときに開催する。
- ③総会の議長は、会長がこれにあたる。

第17条（総会の議事）

- ①会員はそれぞれの一個の議決権を有する。
- ②会員は他の会員に代理出席を委任することができる。
- ③総会の決議は、出席会員の過半数をもって行う。

第18条（理事会）

理事会は、理事をもって構成し、この会則に定められるべきもののほか、次の事項を処理する。

1. 総会における決議事項の執行。
2. 総会に付議すべき事項。
3. 資産の管理。

第19条（理事会の召集）

- ①理事会は年1回以上開催し、会長が召集する。
- ②議長は会長がこれに当たる。

第20条（理事会の決議）

- ①理事会の決議は出席理事の過半数をもって行う。
- ②理事は他の理事に代理出席を委任することができる。

第21条（資金）

本会は下記の資金により運営する。

1. 会費並びに寄付金。
2. 事業収入及びその他の収入。

第22条（会計年度）

本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第23条（事務局）

- ①本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- ②事務局は、理事長が統括する。
- ③事務局に常勤する職員は有給とすることができる。

第24条（会則の変更）

会則の変更は会員の3分の2以上の承認を要するものとする。

- 付則
1. 本会は1990年12月8日から発足する。
 2. 本会の最初の役員は設立発起人がこれにあたる。
 3. 2002年6月29日、一部改訂

役員名簿

（2004年の総会まで）

会 長	藤 本 恒	京都文教大学
理 事 長	榎 原 茂 樹	大阪外国語大学
		神戸市外国語大学
会計監事	待 場 裕 子	流通科学大学
理 事	伊 井 健一郎	姫路獨協大学
理 事	釜 屋 修	駒澤大学
理 事	神 埼 多實子	NH K B S ・ 通 訳
理 事	上 林 紀 子	京都外国語大学
理 事	奥 水 優	日本大学
理 事	武 吉 次 朗	前摂南大学
理 事	塚 本 慶 一	神田外国語大学
理 事	戸 毛 敏 美	関西外国語大学
理 事	橋 本 南都子	東海大学
事務局長	岩 下 孝 彦	大阪中国語学院

会報 第13号 2003年8月31日 発行

日本ビジネス中国語学会

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北2番26号 マルサンビル4F

日中語学センター気付

電話 06-6353-2442 FAX 06-6353-0664